

## 令和7年度 大正北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

##### ◎全国学力学習状況調査

国語… 話すこと・聞くことの単元では昨年度48.3%の正答率をあげていたが、今回は44.2%にまで下がった。一方で、読むことの単元では昨年度の39.0%から55.8%へと大幅な上昇が見られた。また、問題形式別では、記述式問題の正答率が15.4%と他の問題形式より目立って低くなっている。全体としては、大阪市より正答率が4ポイント低くなっているが、昨年の7ポイント差と比較するとその差は縮まっている。

数学… 図形問題の正答率が40.0%と昨年度の36.8%よりは改善されているものの、府の平均よりも約6ポイント低く、数と式の領域とともに、他の領域と比較した場合は、未だ課題を残している。全体としても大阪府平均との差は11ポイント低く、総合的な底上げが必要である。

理科… 今回、試行的にオンラインで実施された。IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論で、この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じ尺度で比較することができます。その結果本校は全国・大阪市よりもIRTスコアは低い結果となった。

##### ◎3年生チャレンジテスト

国語… 「知識・技能」観点では府平均の約3.0ポイント、「思考・判断・表現」の観点では約4.0ポイント、正答率が府平均よりもそれぞれマイナスであった。ただ、話すこと・聞くことの分野では、正答率が府平均から0.8ポイントのマイナスにとどめることができている。全体として、約6.0ポイントのマイナスになっている点が今後の課題である。

社会… 「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれにおいても正答率が府平均を下回っている。分野別では歴史に比べ、地理の正答率が伸び悩んでいる。今後の課題としては、地理分野の底上げを含め、全体的な基礎基本の徹底をさらに図る必要があることである。

数学… 「思考・判断・表現」の観点で、府平均を正答率で2.0ポイント下回っている。「知識・技能」では5.4ポイント下回っている。領域別ではデーターの活用分野が2.4ポイントのマイナスと特に低くなっている。全体として約7.5ポイント府平均を正答率が下回っているので、総合的な学力の底上げが必要である。

理科… 正答率の府平均との差が6.8ポイントのマイナスと全体的な学力の向上が必須である。「地球」領域は1.1ポイント、「生命」領域は3.4ポイント、「エネルギー」領域は0.7ポイント、「粒子」領域は1.4ポイントのそれぞれマイナスであった。

英語… 全体で3.2ポイント、府平均よりも正答率がマイナスの中で、「聞くこと」領域のみについては、正答率が、府平均を0.1ポイント上回った。しかし、全体としては府平均に到達できていないので、学力の総合的な底上げが必要である。

#### 【今後に向けて】

##### ◎全国学力学習状況調査

国語… 読み書きを中心に基礎的な学力を身に着けさせることが今後さらに必要である。

数学… 引き続き計算問題等の基礎を確実に身に着けさせることに加え、図形問題など応用的な分野に対応できる学力の構築を図る必要がある。

理科… 1年時からの基礎的な内容を、しっかりと復習していく必要がある。

##### ◎3年生チャレンジテスト

国語… 得意分野を伸ばしながらも、全体的に基礎基本を徹底し、読解力および文章の作成能力の向上に努めていく。

社会… 地理分野の底上げが必要だが、歴史分野とともに基礎基本をさらに重点的に取り組んでいく。

数学… 計算など基礎基本をさらに徹底し、加えて資料の読み取りや関数といった応用分野にも対応できる力を養っていく。

理科… 「生命」領域が特に弱い傾向があるので、その部分の底上げと全体的な基礎基本の徹底を図っていく。

英語… 聞く力である程度結果が出たのは喜ばしいが、まだまだ基礎基本に加え、記述問題に対応できる力が不足しているので、それらを含め全体的に学力の底上げを目指していく。